

2025年2月19日（水）18：30～19：30

出席者：（学内）永下、岩下、越智、小舟、事務
（学外）酒巻先生、田中先生、日吉先生、宍戸先生

【議題】

1. 司法試験の結果について

事前に配布した資料に基づき、永下院長より本年度の司法試験結果について説明がなされた。

2. 委員から質問があり、院長が回答した。主なやり取りは下記の通り。

Q. ①法曹コースの合格率が良かったのは、良い学生が揃ったのか、何か良い工夫があったのか。

A. 学部の法曹コースのリクルーティングと教育が効いている。実務家教員の学生からの信頼が厚い。

Q. 法曹コースから良い学生が入学し、メンター制度がうまくいっているようだが、横への展開はいかがか。優秀な学生に引っ張られて、ボーダーラインの学生が上がるということはよくあること。

A. 在学中受験を考慮したコースは集中的に負荷をかけるカリキュラムになっている。修了後受験を目指すコースは、緩やかなカリキュラムとなっている。学生は切磋琢磨して良い刺激を受けている。

Q. 法曹コースの実務家教員の指導は、具体的にどのような指導をしたのか。

A. 学部時代は定期的な小テストを課したり法曹コースに残れるか判断したりして、実務家教員が監修のように関わっている。その後は規範演習をつきっきりで添削含め対応している。

Q. 在学中合格した後、3年次の後半を学生はどう過ごしているのか。他大学事例では、実務系科目を受けるのと並行して、リサーチペーパーを書いたり、国際系の科目を履修したりしている。

A. 模擬裁判や実務系の科目に取り組んでいる。学生同士が影響を与え合うことは非常に重要と考えている。

Q. 若手の弁護士で頼りになるのは、リサーチの仕方を知っていたり、要件事実をわかっていたりする方なので、合格後の過ごし方というのは、リサーチしてレポートを書く練習できる良い時期である。

A. 内容について学生に伝えていければと思う。模擬裁判については熱量がある模様。合格後、学生によって、リサーチに力を入れる学生もいる。

Q. 他大学事例では、在学合格後、弁護士になろうとする学生、インターナショナルな関心たとえば英米法に興味を持っている学生も多い。外国語の基本を勉強するには良い時期かもしれない。上智はその分野に関心がある学生が多そう。アメリカ法のシステムに詳しくなっているのも良い。選択科目で英米法、EU 法など履修し、合格後に比較法、国際法に自然と関心が向く印象である。

A. 参考にしたい。

3. その他

学外の各委員から意見・助言を頂いた。

以上